

学林舎情報

NO. 155

共創ネットワーク

●発行日：2015年6月20日（土）

〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘3-19-3 TEL 06-4962-5876 FAX 06-4962-5877 e-mail info@gakurin.co.jp

発行：教材出版 学林舎



大学教育の行く先 4学期制度からみえるもの

今年から東大は4学期制度を実施しています。そして、6月5日より農・薬学部などの一部学部では夏休みにはいっています。約3ヶ月の長期夏休みに学生に期待することは、短期留学、ボランティアなどを含めた学習・社会経験。東大は、他の学部でも今後、長期夏休みを実施する予定です。4学期制度を実施している早稲田大学では、目標と目的を下記のように示しています。

- (1) 在学生のサマー・スクールへの短期留学
- (2) 海外の学生の早稲田のサマー・スクールへの参加
- (3) 海外の教員が早稲田のサマー・スクールで教える
- (4) 早稲田から留学した学生の復帰をスムーズにする

*文部科学省「学事暦の多様化とギャップタームに関する検討会議」資料より

ここ数年、日本の有名大学がアメリカの大学を意識したカリキュラム編成を一部実施しています。在学生はもちろんのこと、海外から学生、教員も含めた人材を大学に集め、大学の活性化、グローバル化を推進していくのが目的です。そして、少子化が加速する日本において、大学側が示す“グローバル戦略”ともいえます。こういった流れ、意識は、海外では当たり前なのですが、日本の大学ではおこなってきませんでした。どちらかという国内に目を向け、国内の企業との連携に終始していましたが、今後10年、海外の企業との連携は加速化し、日本の有名大学が気がついたら〇〇大学、日本キャンパスになっている可能性もあります。

20年前、そういった大学が日本にも一部ありましたが、それとは違った本格的な大学がでてくることは時間の問題です。

こういった状況の中、高校・中学校・小学校・幼稚園、そして民間教育機関の塾などは、英語を含めた外国語、外国教育・学習をどのように指導していくのが求められません。すでに、学校レベルにおいては、文部科学省が推進するIB（国際バカロレア資格）を授業に導入する動きが活発化し始めています。また、幼稚園でも、英語を指導することは一般化しつつあります。言語指導のみならず、他国の文化を知るため、大学では学食において様々な国の料理を食べれる環境を整えています。

この教育・学習の流れは、現在の30～50代の子育て世代にとって、未体験の教育・学習ともいえます。30～50代が受けてきた教育・学習は、学歴を身につけることが求められ、学歴を身につけることが優先された科目学習の指導を受けてきました。しかし、これから未来を生きる子どもたちは学歴という看板を掲げることだけでは、グローバルな競争のスタートラインにたてません。

「自分には何ができるだろう？」この問いに対して、自分自身で考え、自分に何があって、何がないのかをまず分析し、自己評価できる力が必要です。そして、自分が進むべき道に対して、求められる能力があれば、求められることに対して、学んでいける力があるかどうかです。そして、失敗したり、間違ったりすることを恐れない強い心が必要です。このような力、心を育むことが子どもはもちろんのこと、大人にも求められます。

4学期制度というところから、随分、飛躍した話になりましたが、文部科学省、学校教育機関が今までの形を大幅に変化、進化させることは20年前まではありませんでした。それをこの20年間、加速化させた理由は「今のままでは、未来を創れない」という意思表示なのです。

今、教育は大きな転換期を迎えています。（北岡）

学習塾の行く先 私塾化・特化した指導

学習塾の位置づけが、ここ数年変化しつづけています。今も進む予備校・地域塾の統廃合が象徴されるように、学習塾は大きな岐路にさしかかっています。30年前は、看板を掲げれば、多くの子どもたち、親が学習塾の必要性を感じ、宣伝広告をしなくても、50人、100人集まったものです。

しかし、少子化により30年前と比較すると100万人、20年前と比較すると50万人、そして、10年後には10~20万人前後、子どもの数は減少すると予測されています。しかし、学習塾の数は30、20年前と比較すると変わらないどころか、地域によっては増えています。こういった状況に関して、学林舎は“学習塾の私塾化”“学習指導の特化”の必要性を発信しつづけてきました。この2つの提案は、今後10年も発信しつづけないといけないと考えております。この“学習塾の私塾化”“学習指導の特化”ができなければ、“成績保証”“価格”といったサービスで競争しなければいけないからです。“成績保証”“価格”といったサービスは否定するわけではありませんが、学習指導の“質”を落とす原因になります。

“学習塾の私塾化”“学習指導の特化”に関してこの20年、学林舎は様々な角度から提案をしてきました。そして、学林舎自身も学校内に私塾をつくるプロジェクトなど様々なことを実践してきました。そういった経験を積み重ねてきた中で確かなことは「子どもたちの学びに対する意欲は非常に高い」ということです。つまり、学習に対して意欲を失っている子どもがいれば、意欲をもたせることによって学校レベルの学習は簡単に向上できます。そのためには指導する側が“学びの達人”になり、学びつづけないといけない。そして、厳選した教材=素材を揃え、用いる必要があります。これは、どの業種、分野においてもそうです。“学習塾の私塾化”の一步はそこから始まると私は考えています。

“学習指導の特化”は、すでに多くの学習塾がはじめています。例をいくつかあげてみます。

「国語専門指導などの科目に特化した指導」「未就学児童を対象とした指導」「食育を通して学習する英語指導」「ロボットプログラミング指導」「理科実験・工作指導」「自然体験学習指導」「多国語指導」などなど。同じ学習塾内に様々な特化した学習指導をおこなっています。特化した学習指導を考えるにあたって、重要なのは指導の“深み”とその指導はその地域に“いくつあるか”です。“深み”に関しては、前提として基礎知識があり、その基礎知識を指導する側が学べるかにあります。このことは、“学習塾の私塾化”と同じで、極端に言えば、指導する側は学ぶ側より学習すること、学ぶことに対して意欲的でないといけないということです。その指導はその地域に“いくつあるか”についてですが、これは何かを営むにあたって重要なキーワードのひとつです。複数あるものに対しては、必ず受ける側は比較をします。ないものに関しては比較のしようがないので、必要であれば使いつづけます。よく、飲食店などを開業するとき、その地域にない食材、料理を提供することが商売の成功の秘訣だといいます。“学習指導の特化”においても、それは同じです。地域に同じような指導をしている塾が複数あれば、必ず比較されます。そのため、塾がその地域に多ければ多いほど、特化した指導には様々な工夫が必要になります。

学林舎では“学習塾の私塾化”“学習指導の特化”を考えておられる先生方をサポートすべく、様々な提案をおこなっていきたいと考えております。(北岡)

【夏期推薦教材】

データ教材—中学英語ブロック・ステップ

○文法項目別に学習できる

中学英語ブロック・ステップは「MAP式英語学習」をより簡単にご利用いただくために再編集したデータ教材です。中学1年生～中学3年生の英語を文法項目別に学習できる教材です。

各学年500ページ以上

サイズ：A4 形式：PDFファイル

価格：各学年 8,640円(税込)

国語を 考えてみる

文／学林舎国語顧問 森本 秀俊

ああ、素晴らしき哉、日本語⑭

前回は「気」という字を使った熟語を二字熟語から十一字熟語まで見てきました。今回は「気」という字を使った慣用句やことわざを見ていきましょう。

「気が置けない」という言葉があります。私はいい歳になるまで、この言葉の意味をとりちがえていました。「気」を「置くこと」ができないのだから、「油断できない」「気を許すことができない」という悪い意味でとらえていたのです。ところが、ある時、ある方が私の身内に対して「〇〇さんは気が置けない人柄ですね」と言ったのです。私は「じえじえじえ」と思いました（少し古くてすみません）。だって本人の目の前で「〇〇さんは油断できない奴だなあ」とけなしたと思ったからです。気になったので、その日、家に帰ると早速国語辞典を引いて意味を調べました。すると、「気が置けない」の本当の意味は、「遠慮したり気をつかたりする必要がなく心から打ち解けることができる」というものでした。「ほほお」と感心したことを今でも覚えています。

「気もそぞろ」という言葉が好きですね。たとえば、男の友人同士が道を歩いています。一人が真剣な様子でもう一人に向かって、「人生というのは、結局は努力で何とでもなるんだよ。努力をおこたる者が、人生において敗者になることは必然の理なんだ」などとまくしたてている。ところがそのとき、前からとびきりの美人が歩いてきた。話をしているほうは自分の話に酔っているから美人の存在に気づかないが、聞かされている方はもう気持ちが完全にその美人に移っている。

「なるほど」、「そうだね」などと相づちを打つものの、相手の話なんてほとんど心に入ってきていない。こういう状況を「気もそぞろ」といいますね。ユーモラスな言葉です。ちなみに「そぞろ」を使った別の言葉に「そぞろ歩き」というものがあります。「特にこれという目的もなく、ぶらぶらと歩き回る」という意味ですが、これも味わい深い言葉ですね。

「気が気でない」という言葉は「心配で落ち着かない」という意味を表しますが、「心配で落ち着かない」と言うより、「気が気でない」と言ったほうがより切迫感が感じられます。

「今日は息子の入試発表の日で、
心配で落ち着かないのよ」

「今日は息子の入試発表の日で、気が気でないのよ」

前者は、「私の息子の学力からすれば、あの程度の学校は余裕よ、よゆう」という雰囲気がありますが、後者には「ここが最後の頼みの綱なの。神様でも仏様でも、天狗様でも何でもいから、お願いだから合格させて」という切実な思いが感じられます。

ふだんの生活の中で、「気」をつかった言葉ほど、多く使われている言葉はないのではないかと思います。「気がつかない」「気を悪くする」「気に喰わない」「気が早い」「気が重い」「気が合う」「気が利く」「気をつかう」「気がある」「気が晴れる」「気が進まない」「気が散る」「気を良くする」「気が乗る」「気が引ける」「気を配る」「気にかける」「気をもむ」「気に病む」「気を失う」「気を入れる」「気をまぎらす」「気が向く」「気が小さい」「気の無い」「気を抜く」「気がそられる」「気に障る」「気がまぎれる」「気を取り直す」「気が短い」など。まだまだあります。

これだけの言葉の意味を説明するのは、「気が遠くなる」作業なので、今回は遠慮しておきます。

ああ、素晴らしき哉、日本語。（つづく）

算数・数学から見える世界

文／学林舎算数・数学顧問 深見 和孝

先日、学林舎の教材を使ってお孫さんに算数を教えておられる方から、たし算の問題に関してのご質問を受けたのですが、残念ながら、どうも私には上手く説明できないようなのです。そこで、今回のコラムでは、「たし算とは何か？」考えてみたいと思います。

ご質問のポイントは、小学1年の算数の教科書にある「ふえると いくつ」「あわせて いくつ」という2つの単元の違いにありました。ふだん教科書を読むことのない皆さんがピンとこないのは当然です。そこで、具体的に問題例を書きましたのでご覧ください。

【問題 A】

花壇に花が4本植えてあります。あらたに3本植えると花は全部で何本になりますか？

【問題 B】

花壇に赤い花が4本、黄色い花が3本植えてあります。花は全部で何本ありますか？

どちらの問題も、答えは $4 + 3 = 7$ で、7本です。式が同じになるのだから、同じことなのでは？わざわざ同じ問題をならべて出題する意図があるのでしょうか？教科書としては、問題の意図はそれぞれ別にあって、算数教育的には、**問題 A は「増加」、問題 B は「合併」と**よばれるものです。ここで考えたいのは、増加だろうが合併だろうが式にするとたし算になるのはどうしてなのだろうか、ということです。つまり、問題 A と問題 B のどちらの場面でも、式にすると $4 + 3$ という同じものでよいということが不思議なのです。

「何が不思議なのかわからないぞ」そう思われましたか？ごもっともです。不思議だと思っているのは私だけかもしれません。

では、突然ですが、ただ今より私の独断で、数字の言い方を変えることにします。

1→サシ、2→ユキ、3→マユユ、4→タカミナ、5→ジュリナ、6→アヤ、7→サクラ、8→サエ、9→パルル

こんな具合です。特に意味はありません。つまり、先ほどの問題はこうなります。

【問題 A】

花壇に花がタカミナ本植えてあります。

あらたにマユユ本植えると花は全部で何本になりますか？

【問題 B】

花壇に赤い花がタカミナ本、黄色い花がマユユ本植えてあります。

花は全部で何本ありますか？

どうでしょうか？カンタンですか？

問題 A では、タカミナ本からマユユ本増えるのですから、タカミナ本からサシ本増えてジュリナ本、ジュリナ本からサシ本増えてアヤ本、さらにサシ本増えてサクラ本になります。これがタカミナ+マユユというたし算の式になるのですね。問題 B では、はじめにタカミナ本とマユユ本あるのですから、順番に数えると、サシ、ユキ、マユユ、タカミナ、ジュリナ、アヤ、サクラとなるので全部でサクラ本とわかります。これがタカミナ+マユユ=サクラという式になるわけですね。

しかし、問題 A では、はじめにあるのはタカミナ本なのに、問題 B ではタカミナ本とマユユ本あるのですから、どちらも同じ式になるというのは、どうもしっくりこない気がします。なんだかワケがわからなくなってきました。何をしたかったのだろう。そうそう、幼児が算数を習ったとしたら、こんなふうに見えているのかなあ、と思ったわけですね。では続きは次回のコラムにて。(つづく)

クロスロード Crossroad

第46回 文/吉田 良治

企業の新卒採用への新たな対応

大手企業を中心に大学生の就職活動で企業説明会が、今年から3年生の3月に解禁となりました。数年前には3年生の秋口から始まっていたことを考えると、約半年近く遅くなったわけです。こうした企業側の動きには、長期化する就活により、学生が大学で学ぶ時間を守る意味もありました。実際、学生が最長1年半にも及ぶ就活に翻弄され、大学の授業に出席できないと言った問題も起こり、ゼミが成り立たない！卒論も取りやめる！という深刻な状況も背景にありました。もちろん、「企業の新卒採用活動を遅くする」ということが解決のすべてではないにしても、学生が授業そっこのけで企業訪問に明け暮れる状況は、大学教育の価値そのものの低下を意味します。今後も色々試行錯誤していく中で、ベストな就活のあり方が求められます。

ところで企業の新たな動きとして、始業時間を早めたり、残業時間を夜から朝始業前にする、いわゆる朝型勤務が注目されています。2013年に伊藤忠商事が夜の残業を朝にシフトすることで、効率化を図るとともに、トータルで残業時間も削減することで、社員がプライベートな時間を創造し、メリハリのあるライフスタイルを送ることを奨励しました。最近では政府も官民を挙げてこの朝型勤務を支援する動きがあります。国家公務員もこの夏から朝型勤務を導入、経済団体にも朝型勤務の普及を働きかけています。近年問題となっているブラック企業で取り沙汰される、長時間勤務のリスクに繋がる恐れはありますが、朝型勤務の本来の趣旨は、早く仕事を開始して、早く仕事を終えることであり、企業における社員の効率的な働き方を確立し、プライベートな時間において、ライフスタイルを健全なものとする事です。経営

側も従業員側も、その趣旨を理解し、健全なライフスタイルを創造し、定着させる努力が必要です。

高校までは毎朝8時台から授業がありました。12年間かけて定着した朝型の生活習慣も、大学生になると自由に授業が履修できます。そのため朝一番の授業を敬遠する学生も少なくなく、大学に通学する学生のラッシュアワーは、通勤のものと比べ2、3時間遅い、というのが一般的なようです。最近では大学がワンコイン（100円）朝食を提供し、学生に1時限目からの授業へ出席を促しています。これも一つのモチベーションとしては有効な手段とも言えますが、質のある朝食を提供するとなると、経費的には赤字となります。結局大学が負担するか、父母などが援助することになります。重要なことは学生が自分からこうありたい！というものをもって、朝からの時間を有効に使わなければ、一時的なブームで終わってしまいます。

アメリカでは大学の授業開始は朝8時から、というのが一般的です。アメリカでも若者の睡眠不足の問題が噴出しており、高校などでは始業時間を遅らせるべき、という意見もあります。1日24時間は世界中同じです。どのようなライフスタイルを選択するかは個人の自由ですが、一日の始まりを企業や学校が示し、それに合わせて社員や学生が、自分から必要なライフスタイルを確立することが重要です。

ともかく日本の企業が始めた朝型勤務により、今後企業の新卒採用の基準は、大学生時代に規則正しい生活習慣が身についているかどうか、ということも判断材料となるかもしれません。ワンコイン朝食で釣られるのではなく、もっと大きな視点で生活習慣の見直しが無いと、化けの皮はすぐはがれます。（つづく）

吉田良治さんプロフィール

1962年生まれ。1998年にワシントン大学へアメリカンフットボールコーチ留学。2000年リーグ制覇、2001年ローズボウルに出場し、ローズボウル制覇に貢献。国家レベルのリーダーシップ教育に貢献した、ランブライイト元ワシントン大学ヘッドコーチよりリーダーシップ教育を学ぶ。

全米の大学で人格形成プログラム普及に貢献した、ライス元ジョージア工科大学体育局長よりライフスキル教育を学ぶ。

吉田良治さんBlog
<http://ameblo.jp/outside-the-box/>